平成２３年度　高知県公共事業再評価委員会議事概要

日時：平成２３年７月１９日（火）9:00～10:30
会場：高知共済会館　３階「藤」

１．春遠ダム建設事業（河川課）

委員　：検証検討報告書のダムの「計画規模及び近年の洪水実績」の部分で、「現計画での対象洪水の基礎となる計画雨量」とあるが、この雨量の観測場所は？足摺か？宿毛か？
河川課　：弘見（大月町）と出合（土佐清水市）の２箇所の雨量を基礎にしている。両方ともダム近傍にあり、足摺や宿毛よりも近くにある雨量観測所である。

委員　：計画雨量である最大 520mm とはどういう意味か。
河川課　：昭和 47 年から平成 17 年（34 年間）の間の最大雨量から算出している。

委員　：確率規模が 1/30 なので、計画雨量は H13 西南豪雨と比べ当然下回っているが、それ以上の雨が降るとダム下流で溢水するのか。
河川課　：ダムの計画規模を上回る降雨があればそうなる。

委員　：ダムサイトの上流部の森林は自然林か、人工林か？
河川課　：ダムサイトの植生のデータは今は持っていない。

委員長　：西南豪雨と同程度の降雨が発生した場合の想定はあるか。
河川課　：その場合、下流の貝ノ川地区で流量 475m3/s の出水を想定している。

委員　：地元からは、どのような要望、声があったか。
河川課　：土佐清水市側と、大月町側に分けて住民に対し説明会を開催した。
土佐清水市側は治水効果は大月町に比べ小さいが、大月町の水道事情に理解を示し、協力したい旨の意見があった。また、大月町側は毎年のように河川が出水しており、一刻も早く事業を進めて欲しい旨の意見があった。

委員　：仁淀川には大渡ダムがあり、土砂が上流から流れて来ず川底が下がっている。また、海岸もやせ細っている。後の土砂補給がない。ここのダムも同じことにならないか。堆砂の処理、利用はどう考えているか。
河川課　：春遠ダム個別での具体的な案は定めていないが、県としては総合的な土砂管理、侵食した河川、海岸の手当てとして、サンドバイパス的な対策も含めた土砂管理をしていかないといけないと認識はしている。

委員　：計画洪水の想定到達時間はどれぐらいか。
河川課　：整理したうえで改めて返答する。
（※「想定到達時間は、貝ノ川地区の中庄地橋地点で８４分、春遠地区の春遠学橋地点で３２分と計算している。」と後日報告）

委員　　：残工期１９年の期間に、今後、地区の生活形態の変化や人口減少があると思うが、どの対策案をとっても残工期に変更はないか。
河川課　：早期完成への思いはあるが、前回審査頂いた和食ダムへ今後当面の間は集中投資する。このことは地元の皆様へ説明のうえご理解を頂いている。

委員　　：利水対策案に関して、提案されている「ため池」も堤高が１５m以上なので、２種類のダムの比較と考えられるが，ここでは「ダム」と「ため池」の定義をどのように定めているのか。
河川課　：河川法上は堤高１５mを超えるとコンクリートダムでも、土のダムでも「ダム」と呼ぶが、今回の検証では、貯水容量に治水目的を見込むものは「ダム」、利水目的のみのものは「ため池」と整理し、説明上の使い分けをしている。

委員　　：この工事に際して家屋調査は必要ないのか。
河川課　：現在はダムサイト周辺の用地買収もほぼ終了しており家屋調査の必要性は把握していない。今後詳細発注等をする時期になれば、個々に調査の必要性について判断していく。

委員　　：用地買収も終わっているところなので、是非とも早急に進捗を進めていただきたい。

委員　　：今後の人口減少等も想定され、事業進捗がなければ事業そのものの意味が問われるのでなるべく早く事業進捗を目指していただきたい。

委員長　：対策する集落の将来の人口見通しについてはどうか。
河川課　：トレンドで見るとここ数年の集落の人口に目立った変化はないと確認しているが、今後 10 年～20 年先は分からない。

委員長　：検討委員会では、全体の総合評価で「ダム＋引堤」が最も有利と提案されている。今の委員の皆さんの意見を集約させていただくと、５つの案の中では、「ダム＋引堤」が良いということになる。
用地買収もほぼ終了しており、住民からのニーズも高いということであるので、「継続Ａ」とし、なるべく早期に事業進捗していただくという、意見を付けさせていただくでよろしいか。

（全委員：首肯）

委員長　：継続Ａとする。